

2020 年 7 月 / 日

担当者: 岩崎

マネー、原油・米国株に

4～6月 経済再開でリスク志向

2020年4～6月期は、世界の金融市場の中でも原油や米国株などに資金が集まった。各国の大規模な政策動向に加え、各地域で経済活動が再開したため、投資家がリスクを取る姿勢を強めた。新型コロナウイルスの流行を警戒して春先に流出した投資マネーが徐々に戻った。

感染再拡大「逆回転」も

主要な金融商品で最も上昇率が高かったのは原油だ。ニューヨーク市場のWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物価格は3月末に比べ9割強上がった。産油国が大幅な減産に乗り出し、消費国の需要持ち直しも材料視された。「在庫は圧縮に向かう見通しで、7月以降も緩やかな上昇が続くぞう」（棄天証券の吉田哲氏）と強気の見方が多い。

トラスト・アセットマネジメントの小嶋正人アクトップ運用部長は4～6月の株式市場を「イノベーション相場」と表現する。

日経平均株価は18%高と欧州や香港の主要指数を上回り、ZホールディングスなどIT（情報技術）株の上昇も目立った。日本の株高は「感染者数が他国よりも抑えられていたことが大きい」（三井住友トラストの小嶋氏）という。

世界の株式市場で特に上昇が目立ったのは米国株だ。S&P500種株価指数は18%高だった。新型コロナウイルスの感染が広がって外出が規制される中でも、業績の伸びが期待されたハイテク株が上昇をけん引した。三井住友

MSCI新興国市場指数も16%高だった。政府債務がデフォルト（債務不履行）に陥ったアルゼンチンでは株価指数の上昇率が6割強に達した。大和証券の壁谷洋和チーフグローバルストラテジ

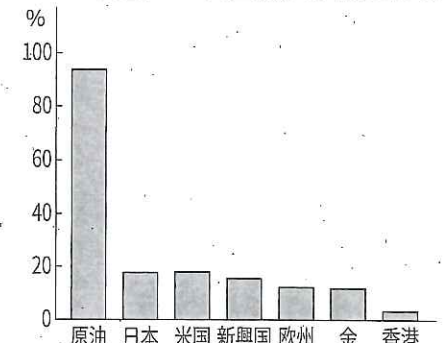
ストによると「先進国株の物色が一巡した後、資金が出遅れていた新興国にも向かっている」という。

米連邦準備理事会（FRB）は3月以降、利下げや社債市場への流動性供給などを打ち出した。日銀も上場投資信託（ETF）の買い入れを増やした。こうした動きは、今後しばらく続く」（国内運用会社）との見方が多く、投資家の「リスクオン」の動きにつながっている。

すでに海外投資家には現金を金融資産に戻す動きが出ている。3月に相場が乱高下した際には、手元に現金を確保しようとの幅広い資産が売られた。資金の回避先となる米MMF（マネー・マーケット・ファンド）は5月末に約4兆8000億が積み上がったが、直近では減少に転じている。

一方で安全資産とされる金も買われている。東京商品取引所の先物価格は30日、およそ1カ月半ぶりに最高値を更新した。商品情報会社マーケットエッジの小菅努代表は「株高の持続力を疑う投資家が多く、株価急落

リスク資産への資金流入が目立った



3月末比。原油はWTI原油先物、日本は日経平均、米国はS&P500、新興国はMSCI新興国市場指数、欧州はストックス600、金はニューヨーク商品取引所の金先物

2020 年 7 月 1 日 担当者: 小松

インド都市封鎖 月末まで延長

感染者数、アジアで突出



インドは新型コロナの感染がスラムなどで拡大している—ロイター

インド政府は6月29日、新型コロナウイルスへの感染予防策として同月末までとっていた都市封鎖の期限を7月末まで延長すると発表した。イ

ンドは3月25日から封鎖を始め、期日を延長するのは5度目となる。封鎖は感染者が多い地域を対象としている。インドは各地域の州政

府が感染者が多い地域をウェブサイトで公表している。それらの地域では食料や医薬品など生活に欠かせない商品の購入込けを容認する。公共交通

機関などによる人の移動を制限し、新型コロナの感染拡大の防止を狙う。

第1段階では飲食店やショッピングモールなどを認めた。第2段階で学校の再開を認めるが、少なくとも7月末までは閉鎖する方針だ。飛行機の国際線や映画館といった利用者が密集するサービスは第3段階としており、感染状況を見ながら再開時期を決める。

世界保健機関(WHO)によると、インドの感染者は54万8318人とアジアのなかで突出して多い。足元で1日あたりの新規感染者は2万人弱に増えた。都市封鎖を続けてきたものの、スラムなどの貧困層を中心に感染拡大が勢いづいている。商都ムンバイがあるマハラシュトラ州の感染者が州は独自に7月末まで地域全体を封鎖する。

インドは感染者が多い地域は封鎖を続けるが、それ以外の場所では経済活動を再開している。封鎖の解除は3段階で進める。第1段階では飲食店やショッピングモールなどを認めた。第2段階で学校の再開を認めるが、少なくとも7月末までは閉鎖する方針だ。飛行機の国際線や映画館といった利用者が密集するサービスは第3段階としており、感染状況を見ながら再開時期を決める。



ウメモト インフラオメーション



2020年7月 / 日

担当者: 榎野

<東証> エフピコが上場来高値 コロナ禍でトレー需要増、リサイクルへの注目も

2020/6/30 14:56 | 396文字 [有料会員限定]

保存 共有 印刷 通知 その他

(14時45分、コード7947) エフピコが上場来高値を更新した。一時、前日比200円(2.3%) 高の8900円まで上昇し、株式分割を考慮したベースで上場来高値をつけた。コロナ禍での外出自粛で家での食事が増えるなか、トレー需要増への期待から堅調に推移している。7月1日からのレジ袋有料化に伴う消費者の環境意識が高まりから、同社が手掛けるリサイクルトレーの需要が増えるとの見方も買いを誘っている。

エフピコのリサイクルトレーは使用済みの食品トレーやペットボトルなどを再生して作る。2022年には兵庫県に新工場を稼働させるなど、同社では需要増に備えた態勢作りを示す。

岩井コスモ証券の有沢正一投資調査部部長は「新型コロナと付き合いながら収益を伸ばせる企業として買い安心感がある」と指摘した。ただ、きょうは買い一巡後は利益確定売りに押され、午後は小幅安で推移している。

[日経QUICKニュース (NQN)]

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報